平成20年度羽田空港における工事状況について

第6回東京国際空港建設技術報告会資料



平成20年12月22日 関東地方整備局 東京空港整備事務所

資料提信

東京国際空港D滑走路外工事JV東京国際空港ターミナル(株)東京国際エスカーディーニナル(株)

羽田空港再拡張事業の構成



D滑走路の概要

■滑走路2,500m(空港島3,120m) 里立・桟橋工法のハイブリッド構造(水深A.P.-1 多摩川の通水性を確保する桟橋構造 ■東京港第一航路の付け替え (大型コンテナ船が高度制限を受けず安全に入出港を可能とす |24時間365日の施工 PFI方式による整備 航路切り替え 3,000m 多摩川 A.P.+17.1m A.P.+13.7m 連絡誘導路部 A.P.+15.0m 接続部 埋立部 (2,020m) (1,100m)多摩川河口域 2

埋 立 部



立部 埋

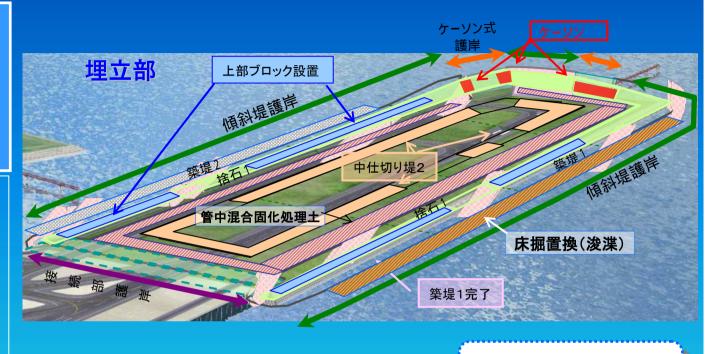
幅 約420m 長: 約2,020m 深:-12~20m 積:約95万㎡

埋立土量:約3.800万m³ (東京ドーム31杯分)

進捗状況

堤 1: 100% 築 堤2: 36% 石: 86% 中仕切り提1: 100% 中仕切り堤2: 64% 被覆石 57% 管中混合処理工:13%

(H20.12, 14現在)



傾斜堤護岸標準断面

床堀土砂の再利用

築堤 1(完了) 築堤 2

上部ブロック

再利用

第一航路浚渫土

埋立土 中仕切り提2

SD改良(完了

中仕切り提1

∇A.P.-12.0~-20.0m

床掘置換

地盤改良(完了) (低置換のSCP改良)

保護砂 サンドマット(完了)

粘性土層

A.P.-52.0~-62.0m

重い砂質土系

捨石

軽い粘性土系

管中混合固化処理土

圧

密

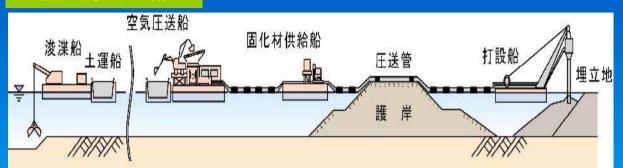
対

象 層

非圧密層(砂層)

埋 立 部 (整備の流れ②;)

施工方法の流れ

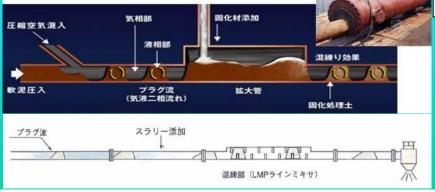


- ・管中混合固化処理土の船団構成は、 空気圧送船、固化材料供給船、専用 打設船から構成される。
- ・材料である浚渫土等を圧送管を通 して打設船まで運ばれるが、固化剤 の添加や混練りは全て圧送管内にお いて行う。







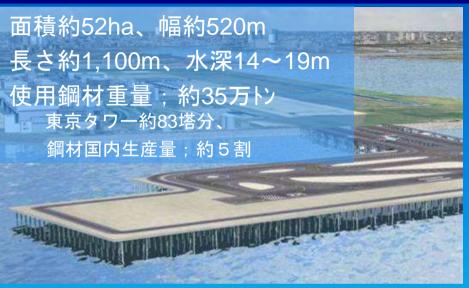




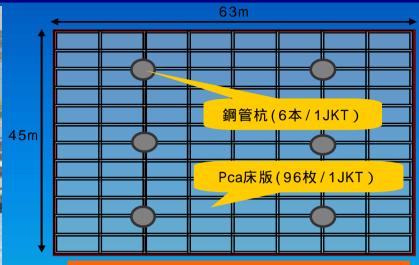
桟 橋 部



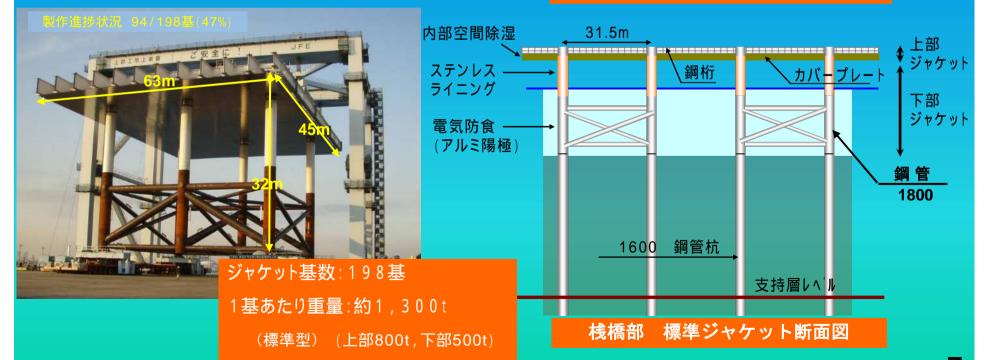
桟 橋 部



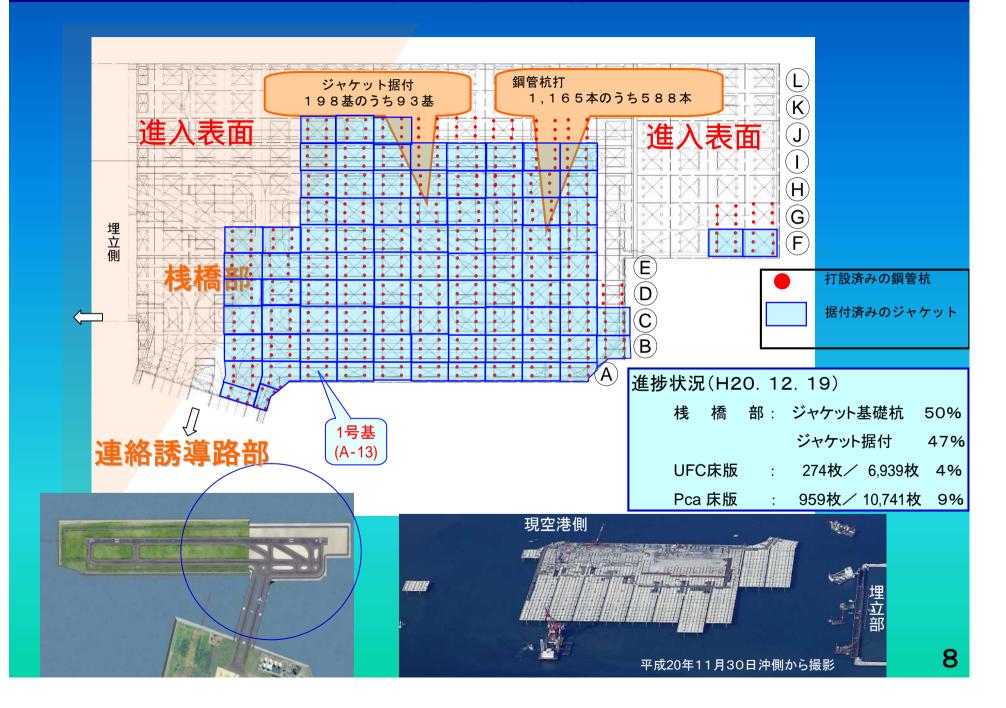
 $W:63m \times L:45m \times H:32m$



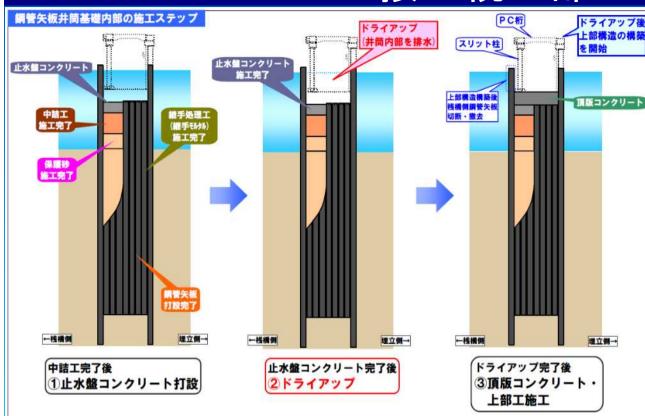
桟橋部 標準ジャケット平面図

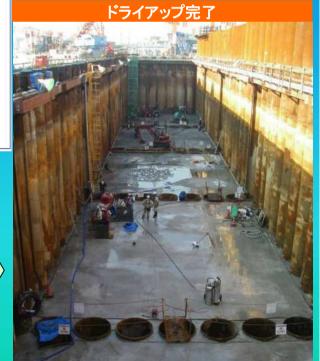


桟 橋 部



接続部



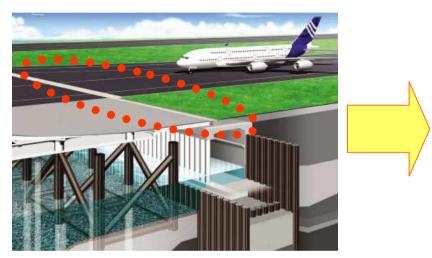


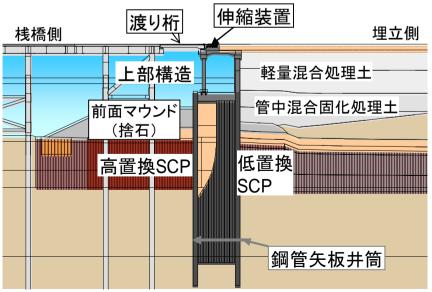


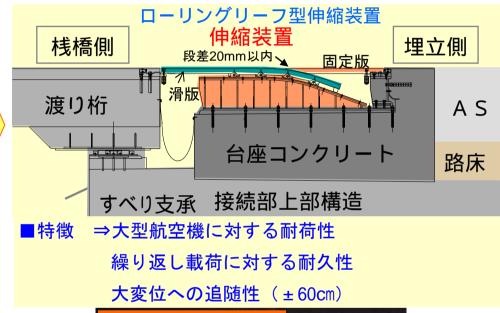


接続部

- 〇ローリングリーフ形式の伸縮措置を設置し、温度変化や地震によって発生する埋立部 と桟橋部の相対変位を吸収。
- 〇実物大の伸縮装置による性能確認試験を実施し、安全性を確認。



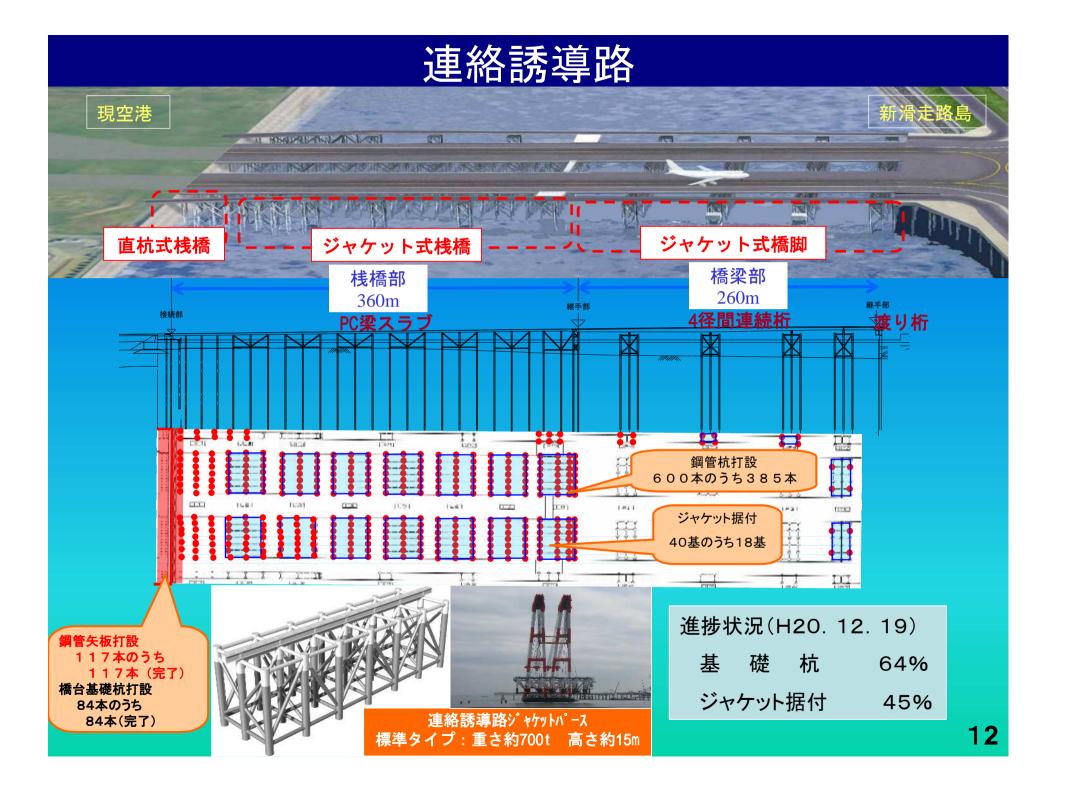






連絡誘導路





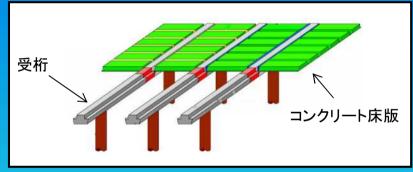
連絡誘導路(床版据付の流れ)

受桁設置状況











床版設置状況





床版据付完了



国際線地区整備事業 PFI手法によるエプロン等の整備



エ 事 の 概 況(エプロン等整備等事業)



エ 事 の 概 況(エプロン等整備等事業)

G S E 橋 梁



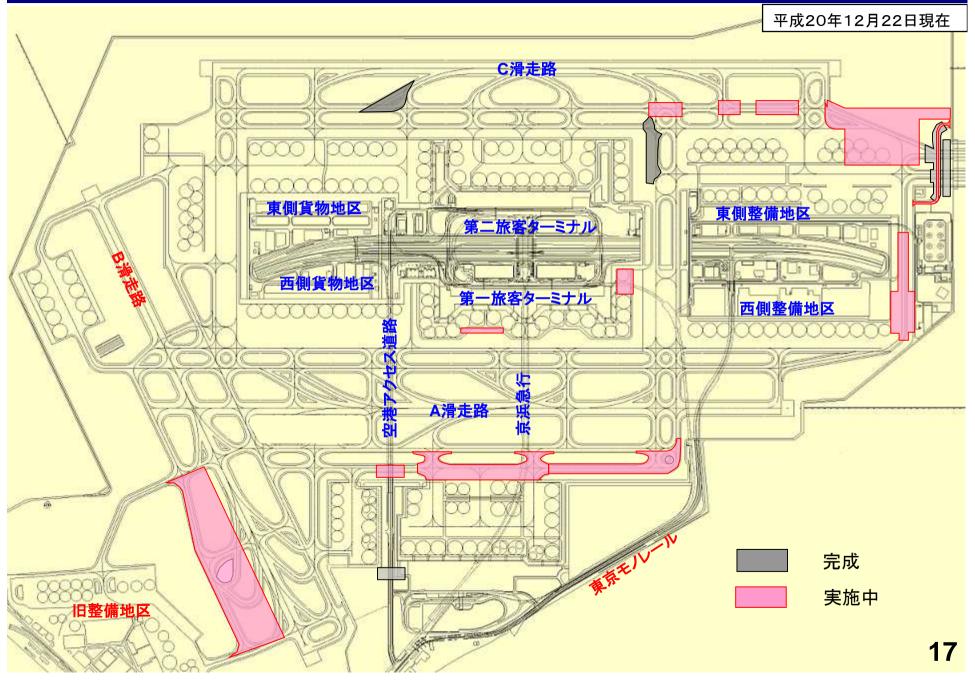


エプロン





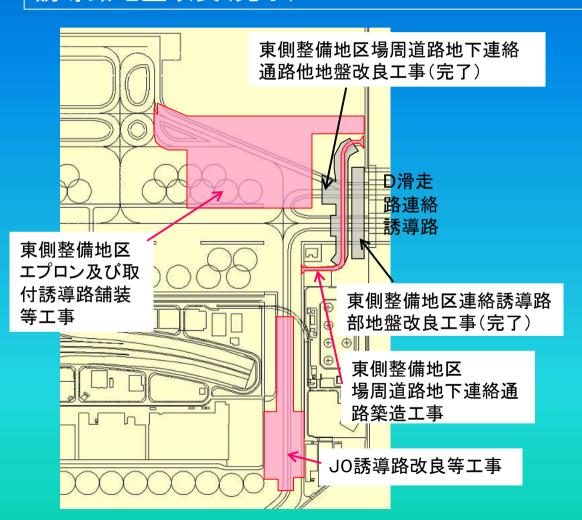
機能向上事業(平成20年度工事実施状況図)



機能向上事業(東側整備地区)

D滑走路連絡誘導路との取付

誘導路新設、エプロン新設、場周道路地下通路新設(地盤改良完了)、連絡誘導路地盤改良(完了)









機能向上事業(国際線地区)

国際線地区への動線整備

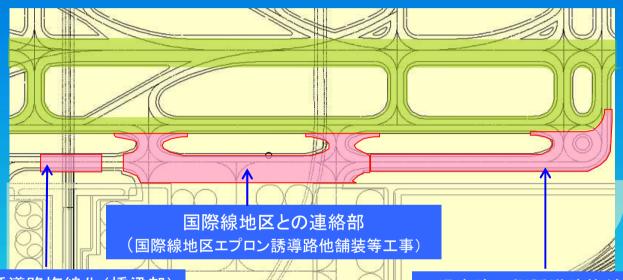
国際線地区への航空機の円滑な地上走行と定時制確保のため、A滑走路西側平行誘導路の複線化を実施

A 滑 走 路

A滑走路西側平行誘導路

A滑走路西側平行誘導路 複線化

エプロンPFI施工



A滑走路西側誘導路複線化(橋梁部) (A平行誘導路橋梁基礎等工事)

A滑走路西側誘導路複線化(南側誘導路) (A平行誘導路舗装等工事)





機能向上事業(利便性の向上)

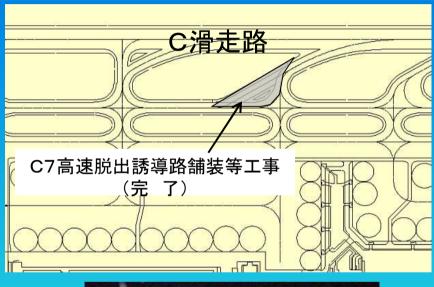
■利便性向上のための新施設の整備

B滑走路北側に新たなナイトステイエプロン等の整備

C滑走路の高速脱出誘導路の整備







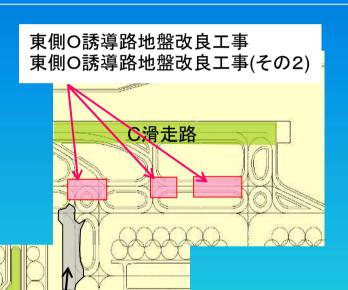


機能向上事業(耐震性・安全性の向上)

■耐震性・安全性の向上

震災時でも耐震強化された航空機導線を確保

地盤沈下への対応



第2旅客 ターミナル

東側整備地区 エプロン及び取 付誘導路舗装 等工事





技術の積極的な対外発表

技術報告会の開催をはじめ、土木学会・地盤工学会、シンポジウム等での発表、専門誌等への論文投稿等これまで約100編を発表。技術の積極的な対外外発表を実施。

20年度発表 】

第63回土木学会年次講演会(平成20年9月10日~11日)

- ・2名の職員が口頭発表。
- ・施工者との連名においてD滑走路5編を発表。

第43回地盤工学研究発表会(平成20年7月9日~11日)

- ・羽田空港セッション(D滑走路、エプロン)を設けて報告。
- ・5名の職員が口頭発表。
- ・施工者との連名においてD滑走路12編、エプロン8編を発表。

専門誌等の論文投稿

- ・セメント協会「セメントコンクリート」No735.12-16
- •建設図書「橋梁と基礎」 Vol.735.12-16
- ネヌティエス「未来材料」 Vol.8.No10
- Steel Construction Today&Tomorrow,No.22
- •日本鋼構造協会会報,No.69,pp.20-24

学会・シンポジウムでの発表編数(H18~)

地盤工学会	第	42	D	13	編
и	第	43		12	編
土木学会	第	62		10	編
и	第	63		10	編
土木学会舗装工学論文集	第9巻			1	編
n	第12巻			1	編
材料工学	地盤改良特集号 第57章第1号			1	編
地震時保有耐力法に基づく橋梁等構造の耐 震設計に関するシンボジウム	第	11	0	1	編
土木鋼構造研究シボジウム	第	12	0	1	編
PC技術協会 ジボジウム	第	16	0	3	編
防錆防食技術発表会	第	27	0	1	編
鉄構塗装技術討論会 特別講演	第	30		1	編
海洋開発 シンボジウム	第	32	0	3	編



工事現場の積極的な公開

◆参議院議員



◆国土交通副大臣•政務官





◆4都県市首長(東京都、神奈川県、横浜市、川崎市)





(7月)

◆報道関係者への現場公開(5月、9月、11月)



◆地元都•県議会(東京都、神奈川県)







神奈川県議会(11月)

- ◆JICA 研修
- ◆自治体研修視察
- ◆学会・大学
- ◆関係団体 など

◆4月から11月迄の事務所視察等受入数 246団体、5,100名

展望 - 展示施設

D滑走路・展望施設には、平成19年7月の一般公開から10月末までに2万人を超える方々が訪問



D滑走路·展望施設(羽田空港南側 三愛石油付近)



D滑走路・展示コーナー(羽田空港第2ターミナル5階)



24